

酒類・食品 & News 解説

週刊

令和6年12月20日(金曜日) 第3426号
(昭和42年7月10日第3種郵便物認可)
毎週金曜日発行 編集発行人 石母田 健
購読料 6ヵ月 14,300円(税込み)
振替番号 東京4-71739
発行所 株式会社日刊経済通信社
本社/東京都中央区日本橋小伝馬町10番11号 日本橋府川ビル9階
☎03(5847)6611(代) FAX 03(5847)6600
名古屋支局☎052(253)6924 大阪支局☎06(6353)1791
<http://www.nikkankeizai.co.jp/>

本紙が選んだ

今年の重大ニュース①

米を含む生鮮食品の価格が高騰

2024年は、外食需要やインバウンド需要の復調で業務用市場が活性化。日本フードサービス協会加盟会社による外食産業市場動向調査をみても、10月はあらゆる業種で前年対比が増加。特に、長期にわたり

前年割れを続けていたパブ・居酒屋業態もインバウンドの集客が増えたことで、前年対比は増加傾向となっている。猛暑に続き暖秋となったことで、酒類・飲料・アイ

スタなどが好調に推移。米不足により、包装米飯やもち、パスタなどの小麦粉2次加工品などが堅調だった。米にとどまらず食品全体が物

外食需要は好調を維持

具材として使う商品への影響が心配される。今年も価格改定が相次い

だが、すでに来年以降の価格改定が発表されている商品もあり、消費者心理に影響を落とさないか、食品のみならずあらゆる価格の動向を注視していく必要がある。
(川田岳郎)

主な内容

2024年の重大ニュース①	1～6面
(菓子、酪農、酒類、即席麵)	
カゴメ食育授業	7面
日本シヤウワ名店24	11面
TCOFFEECS 棚橋社長	15面
トッパ 奥本仙波社長	12・13面
直撃 製粉ノリ歴史的	13面
視点 国産ノリ歴史的	13面
点検 不適克服なるか	13面
◎原料商品情報	8・9面

菓子

アフターコロナから社会生活が平常に戻った2024年は世界的に経済活動が活発化する一方、食料品への需要拡大で、食品・嗜好品の原材料の価格が高騰、菓子産業も23年に続き複数回の価格改定を余儀なくされた。しかし、食料品全般での値上げが行われたためか、価格上昇した菓子の値ごろ感が受け入れられたよう、年初から好調が続いている。25年年初も3年連続の価格が予定されているなか、値上げ疲れした消費者への対応が試されるだろう。

◎菓子ウインド、年間300億円が視野に

訪日外国人の菓子の購入金額が大幅に増えている。コロナ禍以降、円安の進行で日本への観光機運が高まり、外国人の訪日客数は1～9月で既に過去最高を記録。本紙が推計した7

9月の訪日外国人菓子消費金額は621億6910万円、前年同期比128.5%、19年同期比で145.7%、1～9月累計では2025億415万円、前期比157.2%、19年

比149%と、第3四半期までで過去最高だった23年の1969億3972万円の1969億3972万円を突破。年間では3000億円も視野に入ってきた。国別では、7～9月で韓国が112億3132万

円、前期比114.9%、19年比293.2%、1～9月は369億4150万円、前期比129%、19年比171.2%。台湾13億7749万円、前期比132.8%、19年比181.1%、1～9月405億7350万円、前期比156.5%、19年比171.2%。中国は167億4492万円、前期比172.6%、19年比81.2%、1～9月461億663万円、前期比264%、19年比86.9%と回復している。

◎カカオ豆の独自調達が進行
最大生産地のガーナ、コートジボアールの不作を受けて、カカオ豆が過去最高を更新している。国際カカオ機関が調査したカカオ豆の生産量は、23/24年度で445万トン、前期比11%減と予測。ニューヨーク先物価格は4月に1トン当たり1万1000ドルを超えるなど記録的な高騰となり、国内菓子メーカーは度重なる価格改定を強いられた。
これに伴い国内各社は持続的供給に向けて取り組みを開始した。明治は24年
(2面に続く)

ヒゲタしょうゆ

おいしい つゆ スープに

味名人 あじめいじん®

お客様相談室 ☎ 0120-144164 <https://www.higeta.co.jp/>